

正移流域の高値のところは風下側へ移動している。これらの図を見ると Fujita and Byers (1960) の巨大積乱雲内の気流系と類似しており、大胆ない方をすればメソ系のモデルを持続的な大雨の場合には綜観場に適用できるのではないと思われる。

8. むすび

以上、下層ジェットの構造と大雨に対する役割について記述したが、何分にも資料の少ない海上での現象が多く詳細な解析ができない状況である。今後は気象衛星の雲の観測を集積し、その実体を詳らかにする積りである。

最後にこの調査に当りご指導をいただいた名古屋地方気象台長西本清吉氏にこの紙上を借りて厚く感謝する次第である。

文 献

1. Fujita, T. and H.R. Byers, 1960; Model of Hail Cloud as Revealed by Photographic Analysis Tech. Rep. No. 3
2. 後町幸雄, 1968; 近畿地方南部の降雨について

- 京大防災研究所年報, 第11号
3. Lynn L. Means, 1956; Some Basic Parameters Associated with the Flood Rains at Chicago, October 9—12, 1952, Month. Weath. Rev., 8, 253—260
 4. Lynn L. Means, 1954; A Study of the Mean Southerly Wind-Maximum in Low Levels Associated with a Period of Summer Precipitation in a Middle West, Bulletin, 35, 166—170
 5. 松本誠一・二宮洗三, 1967; 集中豪雨雪に関連する問題点, 気象研究所予報研究部発行
 6. 松本誠一・藤田敏夫・浅井富雄, 1962; 36.6豪雨の定性的・定量的解析, 第1部下層ジェットの構造とその役割に関する解析, 天気, 9, 214—221
 7. 島田守家, 1966; 梅雨前線豪雨の構造と降雨の解析, 研究時報, 18, 171—239
 8. R. Tatehira, 1964; Structure and Mechanism of a Huge Radar Rainband, Journal of Meteorological Society of Japan, 42, 362—371
 9. 安井春雄・前田伊三男, 1968; 東海地方の大雨時の天気図型, 天気に掲載の予定

中国気象論文リストの紹介について

中国気象論文については、1964年8月北京で開かれた「北京シンポジウム」に参加した小平、増田両会員が交換文献として持ち帰ったものを、日本気象学会第14期国際学術交流委員会が、天気 Vol 13, No 7, 27—31 にその内容を紹介している。第15期国際学術交流委員会では、気象庁図書所蔵の中国気象学報にもとづき、中国関係の気象論文を調査し、論文題目の邦文リストを作製した。これは気象研究ノート101号に掲載される予定である。

第15期国際学術交流委員会では、従来交流の困難な諸外国の気象学の最近の情報を会員が入手することを援助する目的で、このような国々の気象関係の文献の調査を企画している。今回の中国気象論文リストの作製はこの意図にもとづいて行った最初の仕事であり、昨年1968年12月気象界「日中国交回復」連絡事務局（責任者藤原滋

水会員）より気象学会あてに、日中の気象学の交流に役立てるようと12,055円の寄付があったことは、この仕事をすすめる大なる動機の一つであった。

このリストは勿論十分なものではないが、気象研究ノート101号に掲載するにあたって、会員諸氏がこれを活用され、日本の気象学の発展に寄与されることを希望する。

尚リスト作製の主要な資料は、中国気象学会編集の気象学報であるが、これは1966年の36巻を最後に発行が停止されている。この最終号巻頭には「毛沢東思想の偉大な赤旗を掲げて社会主義文化革命に積極的に参加しよう」等の“解放軍報”社論が掲載されているところから、気象学報の発行停止は文化革命の影響の一つと推定される。

日本気象学会国際学術交流委員会